

平成30年度 第2回花見川区支え合いのまち推進協議会議事要旨

日 時 平成30年12月3日(月) 午後2時～午後4時30分
場 所 花見川保健福祉センター3階大会議室
出席委員数 16名
欠席委員数 8名
オブザーバー 2名
事務局 10名
講師及び関係者 5名

【1】次第

- 1 開会
- 2 委員及び講師紹介
- 3 会議の公開について
- 4 議題
 - (1) 各団体取組紹介
 - ① 障がい者施設との連携した「たすけあい活動」
千葉県社会福祉協議会加曽利地区部会 部会長 江口 忠良氏
 - ② 花見川団地地域での取組について
UR都市機構東日本賃貸住宅本部ウェルフェア推進課 宇内 大樹氏
 - ③ まちかど相談室花見川について
社会福祉法人晴山会 まちかど相談室花見川 所長 南 範子氏
 - (2) その他
- 5 閉会

【2】議事要旨

委員定数24名のうち、8名欠席を確認し開会した。事務局より委員及び講師紹介、なお関係者としてUR都市機構東日本賃貸住宅本部ウェルフェア推進課長・小池信子氏、晴山会・理事長平山登志夫氏を紹介し、次に会議の公開について説明があり、傍聴人の入室、会議録の作成、ホームページ及び推進協だより等への掲載のため、写真撮影、録音を行うことについて、また自治会等を通じ地域住民や公共の場に公開させていただく旨、了承を得た。(今回傍聴人なし。)

議題(1) 各団体取組紹介

- ① 障がい者施設との連携した「たすけあい活動」
千葉県社会福祉協議会加曽利地区部会部会長、江口忠良氏より具体的な取組内容等について説明。【資料1】

<質疑応答>

鶴岡委員：蕎麦打ちのイベントに関して、参加者から費用徴収しているのか。蕎麦打ちは簡単にできないが、どのようにしているのか。参加者はどのくらいか。

江口講師：そば粉等実費は、社協と晴山苑で2分の1ずつ折半している。当社協では5町会がそば打ち交流会を他でも行っており、5～10年の実績があるメンバーが実施している。参加者は障がい者が約40人、その父兄約20人、その他ボランティアや近隣の方を含め約100人で開催している。

原田委員長：生活支援をしているボランティアへの謝礼はあるのか。

江口講師：例えば1時間900円とすると8割の720円がボランティアへ、2割を運営費としている。

② 花見川団地地域での取組について

UR都市機構東日本賃貸住宅本部ウェルフェア推進課、小池課長から説明
花見川団地の取組みの背景について

全国的に少子高齢化が進み、大都市圏を中心に高齢者人口がさらに増加していくことが予想され、URにおいても、外部有識者による検討会を設置し、その提言で超高齢社会におけるURの果たすべき役割として、多世代の方が、生き生きと暮らしていける団地づくりを進めるといったもので、具体的には、団地を含む地域一帯で高齢者を含む多世代が元気に暮らすこと、地域関係者の方と連携協力しながら取組みすることとしている。URでは「地域医療福祉拠点化」と謳っており、千葉市内では7つの団地で取組みをしている。

宇内大樹氏より具体的な取組内容等について説明。【資料3】

<質疑応答>

鶴岡委員：団地の高齢化率が高い中、将来高齢化率を下げるために多世代の3世帯住宅やワンルームマンションに改造しないと高齢化率は止まらないと思う。URはどのように考えているのか。

小池課長：抜本的に団地の改造になり難しいことであるため、今はできることをソフト面から実施している。また今後、考えていかなければならないと思う。

斎藤委員：認知症の方が自分の地区で多くなっており、それを支える家族の居場作りを考えている。花見川団地のお休み処「えがお」は、そのような使われ方をしているのか。取組みでそのようなところがあれば見学し参考にしたい。

宇内講師：お休み処「えがお」は、買い物の休憩所として設置しており、毎水曜日、健康吹き矢というサークルの活動拠点として利用されている。なお、次の南講師が紹介する花見川団地内にある、晴山会まちかど相談室花見川がそのような機能を担っていると思われる。

原田委員長：若い人が入ってこない、高齢者が増え、人口減少が止まらない。若い人が入ってくるようなことを考えて欲しい。

小池課長：ハード部分の改造を以外の取組みとしては、若い方や小さいお子様がいらっしゃるご家庭の方への家賃割引といった制度を設けているが、それだけでは人口減少という大きな流れに打ち勝つほどの効果はなかなかないと課題として認識している。今後考えていきたいと思っている。

③ まちかど相談室花見川について

社会福祉法人晴山会まちかど相談室花見川、所長南範子氏より具体的な取組内容等について説明。【資料2】

<質疑応答>

原田委員長：皆不安や悩み事を持っていて、相談しやすいところにいく。中には民生委員や自治会に相談すべきことも多い。民生委員と話し合う機会を持たれると好いと感じた。また、自治会も民生委員と連携することが必要ではないか。一日の相談件数は平均するとどれくらいか。

南講師：7～8件と思うが、曜日や他のサークル活動の開催状況で集中して多くの方が来所することもある。

原田委員長：晴山会の平山理事長が来られているので、花見川団地の諸問題など、コメ

ントをお願いしたい。

平山理事長：晴山会ができて50年経った。世の中は大きく変わった。日本の社会保障制度は世界一の制度であるが、毎年赤字を出している。その借金の返済は先送りになっている。これは少子高齢化のスピードが速すぎることによるのであろう。

高齢者があんしんケアセンターに相談しているが、そこに来られるのはある程度限られている。まちかど相談室を作るきっかけは、「電球を取り換えられないから施設に入れてくれという患者がいた。自分で生活ができない。隣人に頼むのも30年も全く口をきいたことがない。」そのことから、もっと簡単にコミュニケーションをとれる場所、何でも相談できる場所を作った。まちかど相談室の運営は無償ボランティアであるが、今後全国に広めていきたい。

また、高齢化はもっと進むが、団地に若い人が来られるよう住みやすくするために、皆さんと共にできることをしていきたい。

議題（2）その他

事務局より、第3回推進協議会の開催は平成31年3月上旬を予定していると報告した。

（議事終了）

原田委員長が閉会挨拶し、午後4時30分、花見川区支え合いのまち推進協議会を閉会した。